

平成27年度 武蔵野市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるKPI達成状況と評価

基本目標 1		子育て世代を地域社会全体で支え合い、妊娠、出産、子育ての希望が叶うまちの実現		
重要業績評価指数(KPI)		当初値(H26)	現状値(H27年度)	目標値(H31)
(1) 子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援				
幼稚園・保育施設の定員数		4,451人	4,620人	5,160人
<p>取組みに対する評価: 地域社会全体で子育て世代を総合的に支えるという目標達成に向け、多機関や多職種との連携をキーワードに、連携会議の開催や、幼稚園における預かり保育事業等、さまざまなメニューを着実に実施できた。KPIの現状値も目標値に近づいており、今後も幼稚園・保育施設定員数確保に向けた取組みを進める。幼稚園、保育園合同の研修会の実施等検討中の事業に関しては、具体的な実施方法等について引き続き検討を行う。</p>				
(2) 地域社会全体の連携による子ども・子育て支援の充実				
collabono(こらぼの)コミセン親子ひろばの実施か所数		0か所	4か所	6か所
<p>取組みに対する評価: 共助による子育てひろば事業が新たに開始され、子育てに関連した人や団体につながるための仕組みの一つができた。教育・保育サービスの担い手の育成のための講座等、以前から実施している事業も含めて、課題等がないかを把握しながら、今後、取組みを継続していく。情報発信のあり方については重要であり、子育てに関するウェブサイトの開設は、関連部署とも連携・協力しながらより見やすく使いやすい媒体や手法を検討する。</p>				
(3) 次代を担う力をはぐむ学校教育／青少年の成長・自立への支援				
「学校に行くのは楽しい」と思う児童・生徒の割合		87.9%	87.6%	92.9%
<p>取組みに対する評価: 知徳体の調和がとれた教育を推進するために、ICTの整備やいじめ防止に向けた道徳教育の実施、体育指導の充実など、さまざまな取組を実施できた。放課後施策の充実についても学童クラブとあそべえが連携をしながら事業を行っており、また、学校を離れて地域でのボランティア活動を行う中高生リーダー制度というメニューもある。各事業の充実にも努め、次代を担う青少年の成長に繋がる支援をより一層進めていく。</p>				
基本目標 2		すべての市民が、いつまでもいきいきと健康に、住み慣れた地域で生活を継続できるまちの実現		
重要業績評価指数(KPI)		当初値(H26)	現状値(H27年度)	目標値(H31)
(1) 支え合いの気持ちをつむぐまちづくりの推進				
テンミリオンハウス年間利用者数		35,062人	36,270人	37,800人
<p>取組みに対する評価: 団塊の世代が後期高齢者に達する2025年に向けて高齢者がサービスの担い手となるシニア支え合いポイント制度の検討や、地域の支え合いで運営されるテンミリオンハウスの増設の決定、また、障害者団体同士の横の連携体制づくりの推進等、高齢者や障害者が地域の支え合いの担い手となり、自立を促進する取り組みがなされている。今後は、さらに多くの人たちが地域の支え合いの受け手であり、担い手にもなれる環境や仕組みづくりに努める。</p>				
(2) 誰もが地域で安心して暮らしてつづけられる仕組みづくりの推進				
健康増進事業への参加者数		8,037人	8,665人	8,400人
<p>取組みに対する評価: 地域の見守りや相談機能のネットワークの強化により、地域で安心して暮らすためのネットワークの目がより細かくなっている。幼少期から高齢者までの食に対する市民意識の向上や、健康増進と介護予防の推進、また、障害者や高齢者の就労支援の充実により、ライフステージに応じた健康増進や生活の質の向上を図ることができた。今後もライフステージに応じた健康づくりを進め、保健・医療・介護・福祉等様々な分野で誰もが安心して暮らしてつづけられる仕組みづくりに努める。</p>				

基本目標 3

個性輝くまちづくりを推進し、未来に希望が持てる持続可能なまちの実現

重要業績評価指数(KPI)	当初値(H26)	現状値(H27年度)	目標値(H31)
(1)地域社会と市民活動の活性化			
コミュニティセンターの延べ利用人数	909,601人	884,653人	950,000人
<p>取組みに対する評価:コミュニティセンターの利用促進と市民活動団体相互のネットワーク形成に向けた様々な取組みを行うことができた。とりわけ「地域フォーラム」はコミュニティ協議会と課題別の活動団体の連携が深まり、市民活動団体相互のネットワーク形成にも寄与するものである。コミュニティセンターの延べ利用人数については、西久保コミュニティセンターが3カ月間休館したこと等の影響により、平成26年度の利用者数を下回る結果となった。今後も、コミュニティの活性化に向け、コミュニティセンターの周知と活動の支援に取組む。</p>			
(2)市民文化の醸成／市民の多様な学びやスポーツ活動への支援			
武蔵野地域自由大学の正規科目履修者数	317人	312人	330人
<p>取組みに対する評価:市民が文化芸術に親しむきっかけ作りや様々な文化活動への支援を行うことができた。また、市民の学びの場の提供やスポーツの振興に向けた取組みもできている。とりわけ武蔵野スポーツクラブと生涯を通じてスポーツを楽しむ機会の創出等スポーツ振興に関する相互協力協定を締結できたので、この協定を活かした取組みを進めていくことが大切である。今後も2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、本市の魅力や都市文化を発信するとともに、スポーツを通じて、市民が豊かな生活を続けていけるよう、スポーツ活動を支援する地域の担い手の育成に取り組む。</p>			
(3)地域の特性を活かした産業の振興			
従業者数(事業所単位)	87,022人		89,600人
<p>取組みに対する評価:市内の経済を支える中小企業や創業者に対する支援の充実等により、市民の日常生活を支える身近な産業の振興を促進している。また、吉祥寺FreeWi-fiの整備等、国内外からの来街者を選ばれるまちづくりへの取組みが推進できた。引き続き、インキュベーション施設の整備等により、地域の特性を生かした魅力ある個店づくり、まちづくりへの取組みを行っていく。また、商業に限らず、農業や工業について実態を把握する方法を検討していく。</p>			
(4)都市・国際交流の推進			
武蔵野市国際交流協会による 在住外国人支援事業への参加者数	1,880人	1,909人	2,000人
<p>取組みに対する評価:国内外の友好都市との交流事業を通し、市民の相互理解を深めることで、都市と地方の共存、国際社会の平和や友好に寄与している。その取組は、災害時における支援などに繋がっている。また、市内に在住する外国人の多国籍化が進み、武蔵野市国際交流協会における在住外国人支援事業は、より必要性が増しており、需要に応える支援を行うことができていく。今後も、東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催などに向けて、より充実した取組みを実施していく。</p>			
(5)災害への備えの拡充			
防災訓練の参加者数	5,820人	6,472人	6,400人
<p>取組みに対する評価:目的別の避難訓練や演習といった具体的な取組を行っており、また関係機関との協定締結の実績もある。災害時において、連携は非常に重要な鍵である。平時から多くの団体と連携を深め、より一層防災態勢の強化につながる取組を進める必要がある。耐震化に対する推進に関しても、経済的支援と普及啓発それぞれの観点から、耐震診断助成や耐震相談、アドバイザー派遣等多くのメニューを実施できている。各取組について効果検証を行いながら、さらなる普及を目指して効果的な手法を検討する。</p>			
(6)「緑」を基軸としたまちづくりの推進			
公園・緑地の面積	637,757㎡	641,100㎡	650,000㎡
<p>取組みに対する評価:「緑」を基軸としたまちづくりを市民活動との連携を深めながら推進していくことが求められる。平成27年度よりモデル事業としてスタートした緑の保全サポート制度では、市からの金銭的な補助ではなく、地域の市民自らが緑を守り育てる取組みとしてスタートさせることができた。今後も市民活動と共に連携を図りながら、武蔵野市らしい緑のあり方や、緑の重要性を発信し、事業を展開していく。</p>			
(7)公共施設ネットワークと都市基盤の再整備／社会の変化に対応していく行財政運営			
事務事業見直し・補助金見直しによる経費削減額	1,243,539千円	371,406千円	1,280,000千円 (256,000千円/年)
<p>取組みに対する評価:将来にわたり健全な財政運営を維持し、安全で時代のニーズに合った公共施設等を整備・提供することを目的とした公共施設等総合管理計画案を取りまとめた。また、調整計画期間における財政運営の方針となる留意事項をまとめることができた。KPIの数値が示すとおり、事務事業見直し等においては、成果を上げている。今後も、持続可能な市政運営のため、総合的かつ計画的な公共施設等のマネジメントと行財政運営に取り組んでいく。</p>			